

今年の出穂期は平年より1日程度早い予想 後期栄養確保のため、コシヒカリ2回目の穂肥は十分に施用

1 コシヒカリの生育状況と今後の気象予報

6月28日現在 コシヒカリの生育状況
 ・草丈は短く、茎数は並程度。
 ・中干しを適期にしたほ場では、順調に褪色が進む。

新潟地方気象台1ヶ月予報 (6月28日発表)
 ・7月の前半は気温がかなり高くなる見込み。
 ・平年と同様にくもりや雨の日が多い見込み。

2 穂肥の適正な施用と穂肥診断

(1) 品種ごとの穂肥施用のポイント (基肥・穂肥を分けて施肥する場合)

[コシヒカリ]

- ・1回目(出穂18日前頃): 倒伏や籾数過剰につながらないように、生育状況(草丈、葉色、茎数)を見て慎重に
- ・**2回目(出穂10日前頃): 品質・収量向上のため確実に**
- ・3回目(出穂5日前頃): 出穂間際に急激に葉色が淡くなった場合に実施を検討

[こしいぶき等の収量を確保したい品種]

- ・窒素が早く効く「**化成肥料**」を使い、葉色を落とさないように**1回目(出穂23日前頃)の穂肥をしっかりと行う**

[酒米(五百万石、越淡麗等)]

- ・高タンパクになると酒の味の低下につながるため、**過度な穂肥はしない**

○今年の出穂期予想と穂肥時期・穂肥量のめやす(6月28日現在) ※平坦地の稚苗5月5日頃の田植えに対応

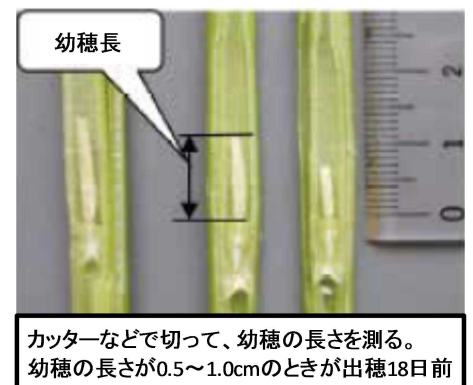
品 種	出穂期 (予想日)	1回目穂肥時期		2回目穂肥時期	
		時期(出穂前日数)	窒素成分量	時期(出穂前日数)	窒素成分量
五百万石	7月23日頃	7月3日頃(-20日)	1kg/10a	7月11日頃(-12日)	1~1.4kg/10a
こしいぶき	7月25日頃	7月2日頃(-23日)	1~1.4kg/10a	7月11日頃(-14日)	1~1.4kg/10a
コシヒカリ	8月4日頃	7月17日~20日頃(-18~-15日)	1kg/10a	7月25日頃(-10日)	1.2~1.8kg/10a

(2) 「コシヒカリ」での穂肥診断のしかた

① 出穂時期の確認

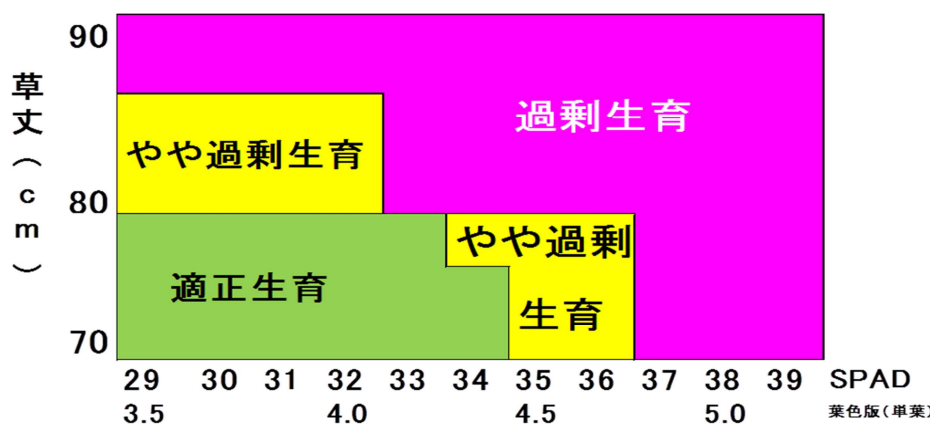
- ・親茎を根元からカッター等で切り、幼穂(ようすい)の長さを測って、出穂時期と穂肥時期のめやすをつけてください。

出穂前日数	幼穂長 (cm)	穂肥時期めやす
23 日前	0.1	こしいぶき 1回目
20 日前	0.2	五百万石 1回目
18 日前	0.5~1.0	コシヒカリ、こがねもち 1回目
15 日前	1.5~2.0	
10 日前	8.0~10.0	全品種 2回目



② 1回目穂肥 — 幼穂長1cmの頃、草丈と葉色で判断

- ・「適正生育」なら出穂18日前、「やや過剰生育」なら出穂15日前に、窒素成分で1kg/10a程度を施用しましょう。
- ・「過剰生育」の場合は施用しないでください。



③ 2回目穂肥 — 必ず実施! 量は出穂10日前頃の葉色で判断

- ・出穂後の栄養状態を良くすることで、品質・収量向上につながります。確実に実施しましょう。

出穂10日前 葉色値 (SPAD)	ほ場の地力	施用窒素量 (kg/10a)	「越後の輝き有機 50 穂肥」施肥量 (kg/10a)
36以上	並	1 kg	8 kg
	低		
33~36	並	1.5kg	12kg
	低	1.8kg	15kg
33以下	並	1.8kg	15kg
	低		

3 穂肥時期からの水管理

- ・出穂1ヶ月前までに中干しを止め、飽水管理に移りましょう。また、登熟向上のため、出穂25日後まではほ場に水がある状態を保ってください。なお、フェーン時には速やかに湛水し、急激な乾燥から稲体を守りましょう。

4 病虫害対策

- [斑点米カメムシ類]: 畦畔・農道の草刈りを徹底し、穂揃い期頃に水田内の薬剤防除を行いましょう。
- [いもち病]: 気温が低く曇雨天が続くと発生しやすくなります。コシヒカリ BL 以外の品種で葉いもちが確認された場合、早急に防除を実施しましょう。

『収量・品質向上! 糸魚川産米』 JAひすい「コシヒカリBLエコライス栽培」に取り組みましょう。	お問い合わせ先	ひすい農業協同組合(営農部) TEL 0120-640-184 糸魚川NOSAIセンター TEL 0120-916-406 糸魚川地域振興局農林振興部 TEL 553-1906 (農業普及指導センター)
---	---------	--